

エンジェル、ベンチャーの夢を買う (「ベンチャー投資マート」本格稼働)

昨年8月この日本に新しい試みが発足した。経営コンサルティング会社ディー・ブレインが企画したもので、その名を「ベンチャー投資マート」という。このマートは、インターネットやFAXを使ってベンチャー企業の新株発行に関する情報を個人投資家(エンジェル)向けに提供し、投資したい人を対象にベンチャー企業が第三者割当増資をするというものだ。

言ってみれば、個人投資家とベンチャー企業間の資金供給を促進する情報交流の場が「ベンチャー投資マート」ということになる。

昨年9月この試みが新聞に取上げられた時、私は関心を抱きその記事を切り抜きこの会社のホームページ(<http://www.d-brain.com>)を覗いてみた。たしかその時4社がベンチャー企業として登録されていたと記憶している。あれから半年余りが過ぎこの試みは新たな展開を迎えようとしている。このマートに登録するベンチャー企業と投資家会員は順調に増加しているようだが、この仕組みの最大の欠陥である投資株式の流通が可能になる道が開けるのだ。

今年1月、未公開株を専門に扱う証券会社設立の動きが新聞に報じられ注目された。金融分野の規制緩和の流れを受け、「ベンチャー投資マート」のディー・ブレイン社が中心となって構想した証券会社の設立が認められたのだ。異業種が新たな証券会社を設立するのは、実に証券業が免許制に移行した1965年以降初めてで、画期的なことである。出資を希望する企業も多数に昇り、この7月に資本金1億5千万円をもって設立されることが決定した。

この証券会社の設立は、未公開株の取引市場の整備に大きな意味を持つ。ベンチャー企業に投資した資金の回収は、従来であればその企業が店頭市場に公開しなければ困難であったが、未公開株市場があれば株式の流動性が高まり投資の魅力が増加する。投資魅力が増せば、国内に低利で眠っている個人金融資産がベンチャー企業に向かう可能性が生じる。そして、新たな資金分配システムが構築される。

日本では今、第3次ベンチャーブームと呼ばれる流れが起こっている。第1次、2次は有力ベン

チャーの躓き等でいつのまにか萎んでしまったが、今回は日本経済構造の改革もからんでかつてなくベンチャーへの期待が高まっている。しかしベンチャー企業へのインフラは整備されているとは言えない。その最大の問題は、資金調達の難しさにある。

最近でこそベンチャー・キャピタルがブームに乗って多数設立され投資先を求めているようだが、技術力や企画力をまとめた事業計画書一つに資金を出すほど甘くはない。また、大企業系ベンチャー・キャピタルに頼るのは今もある種の危険も伴う。それを補うのが、エンジェルである。

米国の旺盛活発な起業を支えているのはエンジェルであるという。エンジェルは慈善家ではなく純粹の投資家で、起業家の夢と実行力に賭け自らの資金を投資する。成功の確率は数パーセントと極めて少ないが成功時のリターンは極めて大きく、積極的にリスクをとって投資する。

日本でもベンチャー企業が成功する必要条件の一つはこうしたエンジェルの登場ではないだろうか。しかし今までは「仕組み」がなかった。ベンチャー企業も既存の金融機関にお願いに行かざるを得なかったし(多くはは無駄だった)、個人も何処に投資してよいか解からなかった。そして、資金力のある大企業においしい所をさらわれてしまった。

今回紹介した「ベンチャー投資マート」と未公開株専門「ディー・ブレイン証券」は、個人投資家とベンチャーを繋ぐ仕組みそのもので、大袈裟に言えば今後ベンチャー企業が日本経済の活性化を担う存在に成れるかどうかの試金石になるのではないだろうか。

日本のベンチャー希望の星「ソフトバンク」は、店頭市場に上場した時その株価は額面の378倍であった。創業時50万円の投資が実に1億8千9百万円になったのだ。果たしてこんなことは二度と起こらない夢なのか。こうした夢が次々と起こる日本であって欲しい。

§お知らせ§

ご希望の方に「ベンチャー投資マート」関係の資料差し上げます。現在登録企業と投資家会員を募集中です。